

特定非営利活動法人 PI-Forum〔ピーアイ・フォーラム〕

第8回 定期総会 (平成21年6月24日)

議案書

第1号議案：平成20年度事業報告等について

第2号議案：平成21年度理事会運営等について

第3号議案：定款変更について

第4号議案：平成21年度事業計画等について

PI-Forumでは、設立7年度にあたる平成20年度事業を終了し、会員各位に対するご報告を行うとともに平成20年度の活動実績を踏まえた平成21年度の事業計画についてお諮りするものです。

今年度の活動を実り多きものとすべく、総会での審議をお願いしたいと存じます。

平成21年6月24日(水) 18時00分開会

於：徳島大学サテライトオフィス東京

第1号議案：平成20年度事業報告等について

事業報告

はじめに 議案の趣旨

本議案は、平成20年6月27日第7回定期総会において承認された平成20年度事業計画等の実施結果についてご報告するものです。

1. 事業の成果

1) 広報啓発事業

「PI-Forum 誌発行事業」(担当：松浦) 事業提案書 No. 1

[実施概要]

PI-Forum 誌の発行により、学術分野や立場を問わず、ミクロからマクロまで、PI-Forum の定義する3つのPI (public incubation, public initiatives, and public involvement) に関心のある研究者、実務家の理論、言説、仮説などを、テーマを定めた上で収集し、定期的に共有する。

[事業成果]

今年度発行を目指していた第4号については当初の予定通り企画が進行せず、発行できていない。来年度に持ち越すこととする。

「PI 書籍出版プロジェクト」(担当：菊池) 事業提案書 No. 2

[実施概要]

PI-Forum のプレゼンスアップ、合意形成、PI、CB に対する啓発、法人活動におけるツール、および財政状況改善を目的とし、書籍の出版企画(コンセプト、章立て、出版形態の決定(新書を目指す))を作成し、フリーの編集者に依頼して出版社の編集者に提案をして貰ったが、条件に合う出版社が見つからなかった。

[事業成果]

書籍の出版を目標にしたものの、出版はおろか出版社の選択にも至らなかった。

目標を新書としたことで出版への関が高くなり、出版社を納得させる材料を提示できなかったこと、上述の材料を構成するに当たり他の理事への協力の要請を行ったものの、理事一名と事務局からの反応があった以外は一切の協力を得られなかったことが課題として挙げられる。次年度も継続して事業を行うためには理事の協力が不可欠である。見込みがないならこれをもって事業を終了するのが相当であると考えます。

PI-Forum 年次セミナー2008 ～実務における合意形成技術の活用～

(担当：小松) 事業提案書 No. 3

[実施概要]

本事業は、合意形成の知識・実践に関心を持つ各界・各層の方々を開かれた共創の場として、2004年度から4年に渡って開催してきたPI-Forumの最大規模の成果発表会である。

5年目を迎える今回は、これまでのPI-Forumの活動で培われたPI指針をはじめとする各種ノウハウ、データ等を体系化する「PIナレッジの体系化」について発表を行ったほか、「IT分野における合意形成の課題とその対応」「合意形成技術者の資格認証と現場ニーズ」の2セッションに分けて参加者との意見交換も行いながら議論した。当日の参加者数は約40名であり、公共事業に関わる合意形成に携わる方からITなどの異分野の方まで幅広く集まっていた。

【事業成果】

当事業を通じてPIナレッジの体系化について発表を行うことができたほか、IT分野など合意形成が必要な異分野での合意形成技術の適用可能性について議論できた。合意形成技術者の資格認証については、様々な立場での議論を行うことができ、今後の検討につなげることができた。

「異分野PI交流ワークショップ（将来展望編）」

（担当：松浦）事業提案書 No. 4

【実施概要】

これまで異分野交流WSが開催されてきているが、今年度は「合意形成推進ロードマップ」や「合意形成推進シナリオ」といった長期ビジョンを今後検討することを念頭に置きつつ、さまざまな分野で「合意形成」に対するニーズへとつながりそうな動きとしてどのようなものがあるのかを把握するとともに、異分野間のコラボレーション促進を目的にWSを実施する。

【事業成果】

本年度は登壇者のスケジュール調整や予算確保の面から開催することができなかったが、様々な分野での合意形成の適用や異分野間のコラボレーション促進については、年次セミナーの中で一部達成できたと考える。

PI-Forum 連続セミナー2008（担当：小松）事業提案書 No.5

【実施概要】

開催期間は平成20年10月～平成21年3月、合意形成のための主な技法である「交渉学」「メディエーション」「コミュニケーション」の3テーマについて、理論と演習という形で各2回ずつ計6回を一つのまとまりとして実施した。プログラムとしては - 1. メディエーションでは、裁判外紛争解決手続き（ADR）の概要と歴史、メディエーションの基本的なスタイル、ルール、プロセスに関する理論と、それらに基づく参加者によるADRのロールプレイ、2. 交渉学では、利害調整やBATNA等の交渉学の基礎、幅広い利害関係者が関与するコンセンサスビルディングの理論と、マルチステークホルダー交渉のロールプレイ、3. コミュニケーションでは、メディエーションや交渉の場面でも必要となる合意形成のためのコミュニケーションの基礎とファシリテーターの役割と、利害対立におけるファシリテーション演習 - という内容で、いずれも、講義を通じて理論的な理解をしたうえで、ロールプレイやグループ討議などの参加型演習を交えて、より体感的に深く学ぶことができる構成とした。

【事業成果】

参加者は11名、セミナーの満足度も高く、「座学と演習がセットになっていたのが良かった」「中身が濃く、講師の方々に大変わかりやすく教えていただきました。全体を通して、素晴らしいセミナーだと感じました」「自分がプロジェクトを進める立場だった場合の効果的な運営方法等についても学べると企業等での応用にも広がりやすい」などの高い評価をいただいた。一方、開催時期や回数への要望も頂いたことから、次年度以降の開催については改善を図り、より参加しやすいセミナーとして継続していきたい。

2) 研究開発事業

「四国WS『合意形成技術者のナレッジと評価およびロスターの検討』」

（担当：小松）事業提案書 No. 6

【事業概要】

本事業は平成16年から開始して今年で5回目の開催となるもので、多様な経験とスキルが必要となっている市民参加や合意形成の現場において、技術者同士が事例を発表・評価し、会議技術や合意形成支援技術等の向上を図るとともに、人的ネットワークの広がりを持つことを目的とした。

本年度は、事例発表＋各分野別のディスカッション＋全体シンポジウムというこれまでにない構成で実施し、参加した技術者同士が交流できるWSとなるよう心がけた。

【事業成果】

本年度は「景観」「道路」「海外事例」の3分野について事例発表を行い、その後、発表者によるパネルディスカッションを実施した。更に、今回は土木学会の合意形成小委員会との共催を行い、同委員会や土木学会四国支部による活動報告講演についても実施した。当日は、年始の多忙な時期にも関わらず約70名の参加者が会場に集まり、合意形成運営についての関心が高いことを伺わせた。

なお、次年度については高知での開催を予定している。

PI 指針と倫理・評価に関する規定展開事業（担当：城山） 事業提案書 No. 7

【事業概要】

H18年度までに作成した「PI指針(v4)」、H19年度に作成した「PI評価項目(v2)」の修正を行い、広報用資料を作成するとともに、広報に努めた。

【事業成果】

広報用資料については近日中にHPにアップする予定である。また、広報活動の一環として、『地方自治職員研修』2009年7月号用の原稿として、「参加型プロセスの評価項目」を執筆した。

3) 現場支援事業

現場支援事業の試行（担当：菊池） 事業提案書 No. 8

【事業概要】

これまでの異分野PI交流ワークショップや年次セミナーの成果を活かした自主事業、他組織と連携した事業を企画・実施しながら、現状での課題点を整理し、短期的に解決できる問題を解決し、長期的に解決すべき課題には解決方針を与える。

【事業成果】

本年度は、昨年度受託した北海道連続セミナーの2回目、3回目を札幌にて開催することができた。次年度以降も同様の受託セミナーを含めた現場支援に寄与する事業の実施、受託に努めていきたい。

PIナレッジの体系化（担当：石川） 事業提案書 No. 9

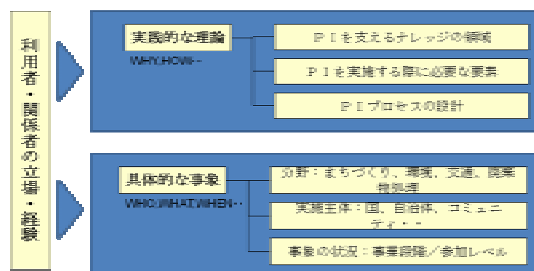
【事業概要】

これまでにPI-Forumが自主研究、共同研究、セミナー事業などで作成、利用してきたドキュメント、参考資料等を中心にPIに関連する方法論を対象、領域、場面等の切り口で整理する。また、当該ドキュメント等の著作権、利用権等の取り扱い、セミナー等で利用する際の注意事項なども併せて整理し、PI-Forumが利用する際のルールを明らかにする。これらの整理・分析がうまくいった場合には、社会に対して何らかの形（例えばホームページなど）で提示する。

【事業成果】

PI-Forumが持つ知的資産などPIナレッジを利用者の視点から整理することを試みた。具体的には、PI-Forumの活動を棚卸しするとともに、PIナレッジを体系化するフレームワークとして下図を提案し、これに沿って利用者の疑問点や既存資料を整理した。また、活動報告「PIナレッジ体系化に向けて」と題し、研究成果を年次セミナーにおいて発表した。

なお、著作権、利用権の取り扱い等の利用ルールについては検討していない。



2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
広報啓発事業	PI-Forum誌発行事業	-	-	-	-	0
	PI書籍出版プロジェクト	-	-	-	-	0
	PI-Forum年次セミナー-2008	3/7	東京	10名	合意形成に関する関連領域の関心者40名	656
	異分野PI交流ワークショップ	-	-	-	-	0
	PI-Forum連続セミナー-2008	10/2-3/12	東京	5名	全国の合意形成関心者11名	579
研究開発事業	四国WS	1/10	徳島		四国内外の合意形成関心者70名	0
	PI指針と倫理・評価に関する規定展開事業	-	-	-	-	0
現場支援事業	現場支援事業の試行	7/14 11/28	北海道	3名	名 (最終確認中)	248
	PIナレッジの体系化	-	-	2名	-	0

(2) 収益事業

今年度は、収益事業は行わなかった。

収支決算

(別添、資料2「平成20年度収支決算関係資料」参照)

1. 財産目録

別添、資料2の通り

2. 貸借対照表(特定非営利活動に係る事業/収益事業)

別添、資料2の通り

3. 収支計算書(特定非営利活動に係る事業/収益事業)

別添、資料2の通り

その他

前年度において役員であったことがあるもの全員の名簿及びそのうち前年において報酬をうけたことがあるもの全員の名簿(別添、資料3の通り)、前事業年度の社員名簿(別添、資料4の通り)。

以上

第2号議案：平成21年度理事会運営等について

1. 理事会の運営方針

理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。(第15条)こととなっている。

平成21年度の理事会の運営にあたっては、これまでの経験を踏まえて、以下の方針で臨む。

1) 理事会は、定例の理事会を年2回程度開催し、法人運営に係る協議・運営事項に関して情報共有をはかり、相互に協力して必要な措置を速やかに講じる。各理事においては事業報告および事業提案について責任を持ち、期限を遵守して責務を果たすこととする。

2) 理事会は、昨年同様、事業毎に理事及び理事以外のメンバー(会員等)によるプロジェクトリーダーを選任し、プロジェクトリーダーに対して事業執行に関する積極的な権限委譲を行うとともに、事業の進捗を評価し適時・適切な支援を行う。

3) 昨年同様、迅速且つ円滑な会計処理を遂行するため、理事の中から「会計担当理事」を選任し、その者に1件当たり50万円以下の案件について会計上の決裁権を与え、事務局長に決済を指示するものとする。なお、1件当たり50万円以上の案件については、メール等により、理事会の承認を得ることとする。

2. 事務局体制の充実

1) 本NPOのセミナー事業のほとんどが実施される東京において、セミナー事業の事務局業務を担う「東京セミナー事務局」の設置を検討する。具体的には各種セミナーにおける現地での会場確保や備品調達、当日受付などの事務業務を中心に実施する。

2) 昨年度同様、会員の中で積極的にNPOの事業に参画するメンバーにおいては、「コーディネーター」として理事会で承認し、各プロジェクトの運営やNPOの広報活動のコアメンバーとして、活動を積極的に実施していただくほか、同じく会員の中で各プロジェクトの準備・運営等のサポート役として参画するメンバーを「選任事務局員」として理事会で承認し、各プロジェクトをNPOの事務局とともに支援することとする。

第3号議案：定款変更について

1) 定款 第4章 第13条(下記参照)において、役員の人数を「理事7人以上15人以内」を「理事5人以上15人以内」に変更する。

第13条

この法人に次の役員を置く。

(1) 理事 7人以上15人以内

(2) 監事 1人

2 理事のうち、1人を理事長、1人を副理事長とする。

2) 定款 第4章 第16条(下記参照)について、役員の任期を「2年」から「2年とし、当該年度の総会終了時までとする」に変更する。

第16条

役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠のため、又は増員により就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

第4号議案：平成21年度事業計画等について

事業計画

はじめに - 議案の提案趣旨 -

本議案は、平成21年5月1日から平成22年4月30日までの「平成21年度事業計画」について、会員のコンセンサスを得るためのものです。

1. 平成21年度事業方針

平成20年度においては、6年目となる年次セミナーを開催したほか、自主事業である連続セミナーを成功させ、収益面の自立に寄与する事業を実施することができた。

また、コーディネータの協力により、複数のイベントを東京において実施することができた。平成21年度は、この体制の下で独自コンテンツのさらなる拡充を図り、効率的事業実施を試みることが期待される。一方、平成21年度より、日本全体の経済状況が厳しくなる中、年次セミナーの企業協賛の継続が困難なことが予想されることから、新たな協賛先の確保または自立可能な事業収益の確保に努める必要があると考えることから、以下の方針を提示する。

1. プロジェクト担当の明確化

理事及び事務局、会員のそれぞれがプロジェクトリーダーと為り得る体制の中、各事業において誰が責任者であるか明確に位置づけ、事業実施にあたっては、プロジェクトリーダーを理事及び事務局が積極的に支援する。

その際、プロジェクトリーダーとなる理事及び事務局員、コーディネーターについては予算執行も含めた事業運営の権利を持つとともに、収益確保や事業遂行に関する責任を明確にする。

2. 組織運営の自立性の確保

PI-Forumの各活動の連携を強化するとともに、対外的な説明や協力要請につとめ、財政的に持続可能な体制の確立を目指す。また、NPOの活動主旨に沿った活動経費を生む事業に積極的に取り組み、これまで実施してきた実績・ノウハウをもとにした営業にも努めるほか、各種研究事業や補助事業へのエントリーについても検討する。

本年度は収益を確実に確保し、次年度以降の安定的な法人運営に務め、非営利活動の充実を目指すため、比較的大きな収益を確保する事業にも取り組むこととする。

2. 事業の実施に関する事項

1. 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施 予定 日時	実施 予定 場所	従事者 の予定 人数	受益対象者 の範囲及び 予定人数	支出見 込み額 (千円)
広報啓発 事業	PI-Forum 誌発行事業	1 回 発行	全国	5 名	全国のPI関 心者	115
	PI-Forum 年次セミナー 2009	22/1	高知	10 名	全国のPI関 心者	680
	異分野 PI 交流ワークシ ョップ	年 3 回 開催	東京	3 名	関東地域の PI 関心者約 30 名	210
	PI-Forum 連続セミナー 2009	21/7- 22/3	東京	6 名	関東地域の PI 関心者	1,800
研究開発 事業	P I 指針と倫理・評価に 関する規定検討事業	20/8、9 21/1	東京	3 名	関東地域の PI 関心者	0
現場支援 事業	現場支援事業の試行	20/7- 21/2	全国	6 名	全国のPI関 心者	480
	PI-Forum ナレッジの体 系化	21/7- 22/2	東京	5 名	PI-Forum 及びその会 員	0

2. 収益事業

今年度は、収益事業は行わない。

3. 事業実施に関する内容

1) 広報啓発事業

「PI-Forum 誌発行事業」(担当：松浦) 事業提案書 No. 1

PI-Forum 誌の発行により、学術分野や立場を問わず、ミクロからマクロまで、PI-Forum の定義する3つのPI (public incubation, public initiatives, and public involvement) に関心のある研究者、実務家の理論、言説、仮説などを、テーマを定めた上で収集し、定期的に共有する。

PI-Forum ではこれまで、研究者および実務家による自発的な情報交換を支援するため、ポータルサイトの構築と無償サービス提供を行ってきた。PI-Forum 誌の発行は、PI-Forum が能動的に情報を収集、拡散することにより、さらなる分野横断の情報共有を推進するものである。

昨年度は諸般の事情により発行できなかったが、本年度は第4号の発行を目指して、原稿公募、編集を行う。

PI-Forum 年次セミナー2009 (担当：山中) 事業提案書 No. 2

本事業は、合意形成の知識・実践に関心を持つ各界・各層の方々にかかれた共創の場として、2004年度から5カ年に渡って開催してきたPI-Forumの最大規模の成果発表会である。我々が蓄積してきた様々な知識や情報を広く伝えることで、PI-Forumの活動を広く知らしめると共に、PIや合意形成への関心を高め、人的ネットワークを拡大することを目的としている。

6年目を迎える今回は、四国WSとして四国内で実施してきた土木学会とのジョイント企画とし、収益の確保とセミナー内容の充実に取り組む。

異分野PI交流ワークショップ(将来展望編)

(担当：松浦) 事業提案書 No. 3

これまで異分野交流WSが開催されてきているが、今年度は「合意形成推進ロードマップ()」や「合意形成推進シナリオ()」といった長期ビジョンを今後検討することを念頭に置きつつ、さまざまな分野で「合意形成」に対するニーズへとつながりそうな動きとしてどのようなものがあるのかを把握するとともに、異分野間のコラボレーション促進を目的にWSを実施する。

(合意形成を推進する上で、法制度の改正や五箇年計画の策定など重要な動きを見据えた上で、どのような分野でどのような人々に、マーケティングやロビイング等の圧力を戦略的にかけていけばよさそうかを示す見取り図)

(シナリオ・プランニング技法により、超長期の視点から、わが国の「合意形成」がどのような姿になるかについて複数提示される将来像)

PI-Forum連続セミナー2008

(担当：小松) 事業提案書 No. 4

昨年度からの継続事業として、PIに関する各種のセミナーを連続して行うことにより、関心を持つ人々に対してPIに関する基本的な内容を知ってもらう場を提供する。

昨年度参加をいただいた法人をはじめ、関東、中部地域の公的機関、公益企業などPIに対するニーズが高いと思われる法人に参加を呼びかけることを通じて、PI-Forumの活動をPRするとともに、協賛会員となっていただくきっかけとする。

2) 研究開発事業

PI指針と倫理・評価に関する規定展開事業(担当：城山) 事業提案書 No. 5

事業の目的は以下の2点である。

「PI指針」、PI評価項目」の広報に努める。

「参加プロセスの実務者倫理(v1.0)」については、現場での活用経験も踏まえて議論の

機会を設定し、その結果をフィードバックする形で改訂を検討する。

3) 現場支援事業

現場支援事業の試行(担当:山中) 事業提案書 No. 6

昨年度は、「現場支援事業の試行」として、「人件費等の支払い方法に関する内規(案)」、「契約までの流れ(案)」、「サービスメニュー(案)」等に沿って、「北海道での連続セミナー」を受注し、大きな問題はないことが確認された。

今年度も引き続き幾つかの業務を受注しながら、また更にこれまでの異分野PI交流ワークショップや年次セミナーの成果を活かした自主事業、他組織と連携した事業を企画・実施しながら、現状での課題点を整理し、短期的に解決できる問題を解決し、長期的に解決すべき課題には解決方針を与える。

具体的な継続事業および自主事業としては、下記の事業を予定している。

北海道連続セミナー(担当:松浦、篠田、入江)

昨年度受注した北海道連続セミナーを継続実施する。

PI-Forumによる中立的第三者としての現場支援体制の試行(担当:山中)

PI-Forumが提案してきたPI指針・倫理にのっとり、具体的な現場支援事業(ファシリテータ派遣, 研修, 指導など)の条件整理を進めるとともに、合意形成について普及啓発する小規模セミナーの開催を実施する。

IT系講座(担当:菊池)

企業や官公庁においてITシステムの導入の際に必要な合意形成において、PIフォーラムの提唱する「PI指針」「市民参加の評価項目」および「実務者倫理規定」などを応用することで、ITプロジェクトを成功に導くことができる。こうした異分野におけるPI、合意形成の応用の考え方や事例をPIフォーラムとして関係者にわかりやすく解説し、合意形成の重要性に関して啓発を図っていく。

PIナレッジの体系化 事業提案書 No. 7

これまでにPI-Forumが実施してきた事業などに関連するナレッジを体系化することにより、多様なPIに関連する方法論などの関連性を明らかにし、社会に対して提示する。また、これらを整理することにより、PI-Forumが提供できるセミナー等の企画に結びつけるなど、これまでに蓄積してきたナレッジの有効活用を図る。

予算計画

別添、資料4「平成19年度 特定非営利活動に係る事業 会計収支予算書(案)」の通り

以上